

6 施策

(1) 施策体系図

基本方針① 子どもを主体とした学びの推進

- 施策 1 確かな学力の育成
- 施策 2 豊かな心の育成
- 施策 3 健やかな体の育成

基本方針② 多様な教育ニーズへの対応

- 施策 4 多様な教育ニーズへの対応と社会的包摂

基本方針③ 教員の資質・意欲の向上

- 施策 5 教員の確保及び資質・能力の向上
- 施策 6 教員が子どもと向き合い、チームとして対応できる環境づくり

基本方針④ 安全・安心な教育環境の整備

- 施策 7 安全・安心に学ぶことができる環境の整備

基本方針⑤ 地域連携の推進・家庭教育の支援

- 施策 8 学校と家庭・地域等の連携強化及び家庭・地域等における教育の支援

● 指標

指 標		現状値 2024(R6)	目標値 2029(R11)
「学校に行くのは楽しいと思う」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した、児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査 ⁴⁰)	小6児童	86.1%	増加
	中3生徒	86.4%	増加
「あなたは、日々の仕事に、喜びや楽しみを感じていますか」という設問に対し、「はい」と回答した、教職員の割合(福岡市教育委員会調査)	教職員	74.9%	増加

⁴⁰ 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における子どもの学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的として文部科学省が平成19年度から小学校6年生と中学校3年生を対象に実施している全国調査

<p>(2) 各施策の内容</p> <p>施策 1 確かな学力の育成</p> <p>1 今後の方向性</p> <p>子どもが、自ら問いや目標を持ち、① 行動し、その結果や過程を振り返ることが出来る資質・能力等の育成を図ります。</p> <p>2 主な取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもを主体とした学びの推進に向けた授業改善 子どもを主体とした学びを推進するため、児童生徒の興味・関心を高め、能力・特性等を生かした個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して、子ども一人ひとりの可能性を引き出す授業改善に取り組みます。 また、教員は子どもの学びを支える伴走者として、学びに必要な人や空間・時間などをコーディネートする役割を担っていきます。 ● 学校のICT環境整備、教育データの活用 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、教育の質を向上させていくため、学校において必要なICT環境のさらなる充実に取り組むとともに、教育データ連携基盤を構築し、日々の児童生徒への指導や支援に教育データを活用します。 また、様々な教育データの収集・分析に基づく授業改善や施策立案に向けた研究、研究成果等の発信、大学や企業等との協働⁴¹⁾を担う、新たな学びの拠点として教育研究施設を整備します。 ● キャリア教育の推進② 児童生徒が、「学ぶこと」と「自らの将来」とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を育成することができるよう、各学校段階を通じた体系的・系統的なキャリア教育を推進します。 ● 英語教育の推進 児童生徒が英語でコミュニケーションを図る資質・能力を育成するため、外国語ゲストティーチャーやネイティブスピーカーを配置し、効果的に活用することで、生きた英語に触れる言語活動を充実させるなど、英語教育を推進します。 ● 市立高校の特色ある教育の推進 市立高校については、社会経済の変化や産業界のニーズを踏まえ、市の産業や地域の将来に貢献できる人材の育成に向け、専門学科を有する高校の学科改編など、各高校の魅力化・特色化に取り組みます。また、高度な情報技術を有する人材を育成するため、高等専門学校の設置に向けた検討を進めます。 	<p>3 指標</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指 標</th> <th></th> <th>現状値 2024(R6)</th> <th>目標値 2029(R11)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">「国語・算数(数学)の授業の内容がよくわかるか」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した、児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)</td> <td>小6児童</td> <td>83.2%</td> <td>85.0%</td> </tr> <tr> <td>中3生徒</td> <td>78.5%</td> <td>83.0%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">「5年生(中学校2年生)までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)</td> <td>小6児童</td> <td>80.3%</td> <td>86.0%</td> </tr> <tr> <td>中3生徒</td> <td>80.8%</td> <td>87.0%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した、児童生徒の割合 (生活習慣・学習定着度調査⁴¹⁾) ③</td> <td>小5児童</td> <td>80.2%</td> <td>85.0%</td> </tr> <tr> <td>中2生徒</td> <td>87.5%</td> <td>90.0%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">「将来の夢や目標を持っていますか」とし、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)</td> <td>小6児童</td> <td>83.0%</td> <td>84.0%</td> </tr> <tr> <td>中3生徒</td> <td>70.4%</td> <td>74.0%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">「もっと英語で自分の言いたいことを伝えたり、相手の言いたいことを理解できるようにになりたい」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合 (生活習慣・学習定着度調査)</td> <td>小4児童</td> <td>85.4%</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>中3生徒</td> <td>65.9%</td> <td>72.0%</td> </tr> <tr> <td>「高校での学びは、進路選択に役立っていると思いますか。」という設問に対し、「とてもそう思う」「ややそう思う」と回答した生徒の割合 (福岡市教育委員会調査)</td> <td>高1～高3生徒</td> <td>94.2%</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>英検3級相当以上の中学校3年生の割合 (福岡市教育委員会調査)</td> <td>中3生徒</td> <td>65.9%</td> <td>72.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p><small>41) 子どもたちの生活習慣や学習内容の定着状況を把握し、義務教育9年間を通して、子どもたちの未来に際した指導の改善を図る目的で、平成22年から実施している本市独自の調査</small></p>	指 標		現状値 2024(R6)	目標値 2029(R11)	「国語・算数(数学)の授業の内容がよくわかるか」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した、児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小6児童	83.2%	85.0%	中3生徒	78.5%	83.0%	「5年生(中学校2年生)までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小6児童	80.3%	86.0%	中3生徒	80.8%	87.0%	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した、児童生徒の割合 (生活習慣・学習定着度調査 ⁴¹⁾) ③	小5児童	80.2%	85.0%	中2生徒	87.5%	90.0%	「将来の夢や目標を持っていますか」とし、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小6児童	83.0%	84.0%	中3生徒	70.4%	74.0%	「もっと英語で自分の言いたいことを伝えたり、相手の言いたいことを理解できるようにになりたい」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合 (生活習慣・学習定着度調査)	小4児童	85.4%	増加	中3生徒	65.9%	72.0%	「高校での学びは、進路選択に役立っていると思いますか。」という設問に対し、「とてもそう思う」「ややそう思う」と回答した生徒の割合 (福岡市教育委員会調査)	高1～高3生徒	94.2%	増加	英検3級相当以上の中学校3年生の割合 (福岡市教育委員会調査)	中3生徒	65.9%	72.0%
指 標		現状値 2024(R6)	目標値 2029(R11)																																													
「国語・算数(数学)の授業の内容がよくわかるか」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した、児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小6児童	83.2%	85.0%																																													
	中3生徒	78.5%	83.0%																																													
「5年生(中学校2年生)までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小6児童	80.3%	86.0%																																													
	中3生徒	80.8%	87.0%																																													
「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した、児童生徒の割合 (生活習慣・学習定着度調査 ⁴¹⁾) ③	小5児童	80.2%	85.0%																																													
	中2生徒	87.5%	90.0%																																													
「将来の夢や目標を持っていますか」とし、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小6児童	83.0%	84.0%																																													
	中3生徒	70.4%	74.0%																																													
「もっと英語で自分の言いたいことを伝えたり、相手の言いたいことを理解できるようにになりたい」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合 (生活習慣・学習定着度調査)	小4児童	85.4%	増加																																													
	中3生徒	65.9%	72.0%																																													
「高校での学びは、進路選択に役立っていると思いますか。」という設問に対し、「とてもそう思う」「ややそう思う」と回答した生徒の割合 (福岡市教育委員会調査)	高1～高3生徒	94.2%	増加																																													
英検3級相当以上の中学校3年生の割合 (福岡市教育委員会調査)	中3生徒	65.9%	72.0%																																													

① 今後の方向性

計画期間における施策の基本的な方向性を示しています。

② 主な取組み

今後の方向性に沿って、計画期間に実施する主な取組みや事業を示しています。

③ 指標

施策全体の状況を把握するため、指標を設定します。

- ・各施策分野の包括的な状況を測るため、アウトカム指標とし、施策の当事者である児童生徒や教職員などの視点を主に用いています。
- ・目指すべき状況を示すために目標値を設定しています。
- ・目標値は現状を踏まえ、原則として、定量的な目標値としていますが、定量的な目標値の設定が困難な場合や適さない場合は、定性的な目標としています。

※定量的: 数値や数量で表せるもの 定性的: 数値や数量で表せないもの

(2) 各施策の内容

施策 1 確かな学力の育成

1 今後の方向性

子どもが、自ら問いや目標を持ち、自ら考え、判断・行動し、その結果や過程を振り返るという学びを通して、自分らしい生き方につなげていくことができる資質・能力等の育成を図ります。

2 主な取組み

● 子どもを主体とした学びの推進に向けた授業改善

子どもを主体とした学びを推進するため、児童生徒の興味・関心を高め、能力・特性等を生かした個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して、子ども一人ひとりの可能性を引き出す授業改善に取り組みます。

また、教員は子どもの学びを支える伴走者として、学びに必要な人や空間・時間などをコーディネートする役割を担っていきます。

● 学校のICT環境整備、教育データの活用

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、教育の質を向上させていくため、学校において必要なICT環境のさらなる充実に取り組むとともに、教育データ連携基盤を構築し、日々の児童生徒への指導や支援に教育データを活用します。

また、様々な教育データの収集・分析に基づく授業改善や施策立案に向けた研究、研究成果等の発信、大学や企業等との協働などを担う、新たな学びの拠点として教育研究施設を整備します。

● キャリア教育の推進

児童生徒が、「学ぶこと」と「自らの将来」とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を育成することができるよう、各学校段階を通した体系的・系統的なキャリア教育を推進します。

● 英語教育の推進

児童生徒が英語でコミュニケーションを図る資質・能力を育成するため、外国語ゲストティーチャーやネイティブスピーカーを配置し、効果的に活用することで、生きた英語に触れる言語活動を充実させるなど、英語教育を推進します。

● 市立高校の特色ある教育の推進

市立高校については、社会経済の変化や産業界のニーズを踏まえ、市の産業や地域の将来に貢献できる人材の育成に向け、専門学科を有する高校の学科改編など、各高校の魅力化・特色化に取り組みます。また、高度な情報技術を有する人材を育成するため、高等専門学校を設置に向けた検討を進めます。

3 指標

指 標		現状値 2024(R6)	目標値 2029(R11)
「国語・算数(数学)の授業の内容がよくわかるか」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小6児童	83.2%	85.0%
	中3生徒	78.5%	83.0%
「5年生(中学校2年生)までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小6児童	80.3%	86.0%
	中3生徒	80.8%	87.0%
「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合 (生活習慣・学習定着度調査 ⁴¹)	小5児童	80.2%	85.0%
	中2生徒	87.5%	90.0%
「将来の夢や目標を持っていますか」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小6児童	83.0%	84.0%
	中3生徒	70.4%	74.0%
「もっと英語で自分の言いたいことを相手に伝えたり、相手の言いたいことを理解したりできるようになりたい」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合 (生活習慣・学習定着度調査)	小4児童	85.4%	増加
英検3級相当以上の中学校3年生の割合 (福岡市教育委員会調査)	中3生徒	65.9%	72.0%
「高校での学びは、進路選択に役立っていると思いますか」という設問に対し、「とてもそう思う」「ややそう思う」と回答した生徒の割合 (福岡市教育委員会調査)	高1～ 高3生徒	94.2%	増加

⁴¹ 子どもたちの生活習慣や学習内容の定着状況を把握し、義務教育9年間を通して、子どもたちの実態に応じた指導の改善を図る目的で、平成22年から実施している本市独自の調査

施策 2 豊かな心の育成

1 今後の方向性

道徳教育や様々な体験活動など学校教育活動全体を通して、児童生徒の豊かな情操や道徳心を培い、自己や他者を理解し、他者への思いやり、自己肯定感、社会性などを育みます。

2 主な取組み

● 道徳教育の推進

学習指導要領の趣旨を踏まえ、「考え、議論すること」「児童生徒の実態に応じた指導を行うこと」「各教科等との関連を図ること」などを重視し、道徳の授業改善を進めるとともに、家庭・地域等と連携した取組みを通して、規範意識をはじめとする道徳性の育成を図ります。

● 人権教育の推進

児童生徒一人ひとりが、その発達段階に応じて人権について正しく理解し、具体的な態度や行動につながるよう、「第3次福岡市教育委員会人権教育推進計画」に基づき、学校での人権教育の組織的・計画的な取組みを進めるとともに、教員の人権意識及び指導力の向上を図ります。

● 豊かな体験活動

児童生徒の豊かな人間性や社会性を育むため、自然体験や職業体験、地域や郷土の人・もの・こととの関わりを大切にした学習活動など、様々な体験活動等の充実を図ります。

● 読書活動の推進

読書活動への意識の向上や読書量の増加を図るため、「福岡市子ども読書活動推進計画(第4次)」に基づき、司書教諭を中心に学校司書や学校図書館支援員、ボランティアも含めた体制を強化し、「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての学校図書館の機能を充実させるとともに、児童生徒が発達段階に応じて自ら読書に親しめる環境づくりに取り組みます。

● 情報モラル教育の推進

児童生徒がインターネットやSNSなどの各種メディアに対して正しく向き合い、活用能力を向上させることができるよう、発達段階に応じて様々な情報への関わり方に関する学習を行います。

● いじめの未然防止・早期対応

学校教育活動全体を通して、心の通う人間関係を構築する能力の素地を育成するとともに、各学校で児童生徒が主体となった取組みを推進することにより、いじめの未然防止に取り組みます。また、教員がいじめに関して正確に理解し、積極的に認知を行うことで、早期の組織的対応、関係機関との連携などの取組みを推進します。

3 指標

指 標		現状値 2024(R6)	目標値 2029(R11)
「自分にはよいところがあると思う」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小6児童	85.5%	89.0%
	中3生徒	86.5%	90.0%
「学校のきまりを守っている」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合 (生活習慣・学習定着度調査)	小6児童	90.6%	増加
	中3生徒	96.3%	増加
「人が困っているときは、進んで助けていますか」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小6児童	92.9%	増加
	中3生徒	90.6%	増加
「読書が好きだ」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合 (生活習慣・学習定着度調査)	児童	79.0%	90.0%
	生徒	60.5%	90.0%
「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	児童生徒	96.5%	増加

施策 3 健やかな体の育成

1 今後の方向性

児童生徒が自ら運動やスポーツに親しむことを通して、体力の向上を推進するとともに、生活習慣の確立や学校保健の推進等により、心身の健康の増進に取り組み、健やかな体の育成を図ります。

2 主な取り組み

● 体力向上の推進

児童生徒が、自己の適性や興味・関心等に応じた「する、見る、支える、知る」などの運動への様々な関わりを通して、運動やスポーツに親しみ、生涯にわたって運動やスポーツを継続し、心身ともに健康で幸福な生活を営むことができる資質や能力を育成します。また、部活動指導員を活用するなど地域連携を推進し、部活動の質の向上を図ります。

● 水泳授業の充実

民間プール等事業者に水泳指導を委託し、専門的な水泳指導による授業の充実や水泳学習の計画的実施、教員業務の効率化、学校プール維持管理費の削減等に取り組むとともに、学校プールにおける水泳授業の充実に取り組めます。

● 喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育

未成年期の喫煙・飲酒、薬物乱用を絶対にしないという強い意志を持ち、行動を選択できる資質・能力を育成するため、各学校において薬物乱用防止教室等を通して知識を習得するなど、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育に取り組めます。

● プレコンセプションケア⁴²の視点を取り入れた指導

性に関する指導では、プレコンセプションケアの視点で、児童生徒が将来を考えて健康的な生活を送ることができるよう、正しく判断し行動するための基盤となる知識の習得を図ります。

⁴² 若い男女が将来のライフプランを考えて日々の生活や健康と向き合うこと。早い段階から正しい知識を得て健康的な生活を送ることで、将来の健やかな妊娠や出産につながり、未来の子どもの健康の可能性を広げる。

● 食育の推進

児童生徒が、食に関する知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、栄養教諭を中心とした食に関する指導の充実・工夫に取り組むとともに、地域の自然、文化、産業等に関する理解や生産者の努力、食に関する感謝の念を育むため、食育の生きた教材となる学校給食において、地産地消を推進します。

3 指標

指 標		現状値 2024(R6)	目標値 2029(R11)
1週間の総運動時間60分以上の児童生徒の割合 (体力・運動能力調査)	小5児童	86.7%	90.0%
	中2生徒	82.1%	83.0%
「中学校に進んだら、授業以外でも(中学校を卒業した後も)自主的に運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをする時間を持ちたいと思いますか」という設問に対し、「思う」「やや思う」と回答した児童生徒の割合 (体力・運動能力調査)	小5児童	85.2%	88.0%
	中2生徒	81.8%	84.0%
「好ききらいをしないで、栄養バランスを考えながら食事をしている」という設問に対し、「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童生徒の割合 (生活習慣・学習定着度調査)	小5児童	76.6%	増加
	中2生徒	78.8%	増加

施策 4 多様な教育ニーズへの対応と社会的包摂

1 今後の方向性

児童生徒一人ひとりのニーズを的確に把握し、社会的包摂の観点も踏まえ、個々の状況に応じた適切な支援に取り組むことにより、多様な教育ニーズに対応しながら、一人ひとりの能力を伸ばし、可能性を引き出す教育を推進します。

2 主な取組み

● 教育相談・支援体制の充実

心の健康観察などにより児童生徒の心身の状態の変化を早期に把握するとともに、児童生徒一人ひとりに対して、問題の未然防止や早期対応ができるよう、専門家等による相談支援体制の充実を図ります。

また、教育相談コーディネーター⁴³やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどのさらなる資質向上に取り組めます。

● 不登校児童生徒の支援

学校や学級に行きづらさを感じる児童生徒に対しては、要因やその背景、支援ニーズを把握し、校内教育支援教室、教育支援センター、学びの多様化学校等の多様な学びの場を提供するなど、将来の社会的自立に向けて、個々の児童生徒に応じた組織的かつ適切な支援や指導の充実を図ります。

また、NPO団体との協働による保護者向けセミナーの開催や、保護者間の関係づくりを促す保護者会の開催支援などに取り組めます。

● 特別支援教育の推進

特別な支援を要する児童生徒に対しては、一人ひとりの教育的ニーズに応じた多様な学びの場の整備や、児童生徒の可能性を引き出す適切な指導や必要な支援、将来の自立と社会参加を目指した支援などの充実に努めます。また、障がいの有無に関わらず、互いに学び合う教育環境を実現するため、交流及び共同学習の推進、医療的ケア支援体制の整備など、インクルーシブ教育システム⁴⁴の充実を図ります。

加えて、特別支援学校教諭免許状を保有する人材を積極的に確保するとともに、全ての教員の特別支援教育に関する理解の深化を図り、専門性の向上に向けて取り組めます。

⁴³ 学校全体の児童生徒の状況及び支援の状況を一元的に把握し、学校内及び関係機関等との連絡調整、ケース会議の開催など児童生徒の抱える問題の解決に向けて調整役として活動する教員

⁴⁴ 障がいのある子どもが、その能力や可能性を最大限に伸ばし、地域社会の一員として豊かに生きることができるよう、障がいの有無に関わらず、共に学ぶ仕組み

● 日本語指導の充実

日本語指導が必要な児童生徒に対しては、児童生徒がきめ細かな日本語指導を受けることができるよう、受入れ体制の整備を図り、いち早く日本の学校生活になじみ、日本語での学習に取り組めるよう、指導や支援の充実を図ります。

3 指標

指 標		現状値 2024(R6)	目標値 2029(R11)
「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できていますか」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	児童生徒	67.9%	73.0%
不登校児童生徒のうち、専門的な相談・指導等を受けた割合 (児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査)	児童生徒	48.1% (R5)	61.0%
「個別の教育支援計画及び個別の指導計画に沿った支援を行い、校内や学校間で引継ぎができていますか」という設問に対し、「はい」と回答した学校の割合 (福岡市教育委員会調査)	小・中・高・特別支援学校	94.0% (R5)	増加
「友達と日本語で会話できるようになって楽しく過ごせた」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した日本語指導を終えた児童生徒の割合 (福岡市教育委員会調査)	児童生徒	87.5%	増加

施策 5 教員の確保及び資質・能力の向上

1 今後の方向性

資質と意欲のある人材の採用や、教員が学び続けることができる環境づくりを推進することにより、教育に対する使命感や情熱等を持った教員を確保するとともに、教育の専門家としての資質・能力の向上を図ります。

2 主な取組み

● 実践力のある教員の確保に向けた取組み

子どもを主体とした学びにおいて教員が担うべき役割を踏まえ、大学との連携の充実・拡大による教員の養成や、多様な専門性を持つ人材の確保等に向けた採用手法の改善により、実践力のある教員の確保に取り組みます。

● 資質・能力の向上に向けた研修の充実

教職員が時代の変化に応じて求められる資質・能力を身に付けるとともに、自らの専門性を高めていくことができるよう、「福岡市教員育成指標」⁴⁵に基づく研修の実施や先進事例などの調査研究と情報提供、協働的・探究的な校内研修の推進など、教職員一人ひとりが意欲を持って、多様な専門性を持つ人と関わり合い、主体的に学び続けることができる環境づくりに取り組みます。

● メンタルヘルス対策に向けた取組み

教職員が心身ともに健康で能力を発揮できるよう、「福岡市立学校教職員心の健康づくり計画」に基づき、心の病の予防や早期対策、職場復帰支援・再発防止などメンタルヘルス対策の取組みを推進します。

● コンプライアンス推進に向けた取組み

不祥事の根絶に向けて、各学校が主体的にコンプライアンス推進に取り組む組織風土づくりを支援するなど、引き続き、教職員一人ひとりの当事者意識の向上と、学校と教育委員会が一体となった取組みを推進します。

⁴⁵ 教員(教員志望者)がどのような資質・能力を身に付けながらキャリアを積んでいけば良いのかをキャリアステージごとに示したもの

3 指標

指 標		現状値 2024(R6)	目標値 2029(R11)
教員採用試験の競争率 ※競争率＝受験者数÷採用者数 (福岡市教育委員会調査)	受験者	3.0倍 (R5)	3.3倍
「授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っているか」という設問に対し、「よくしている」「どちらかといえばしている」と回答した学校の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校	96.6%	増加
	中学校	94.2%	増加
「ストレスチェックの結果の活用や研修など、教職員自身の心身の健康状態につき振り返り対処する機会が提供されていると思いますか」という設問に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した学校の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校	90.4%	増加
	中学校	92.9%	増加
「私は、公務員倫理や服務義務について、十分に理解している」という設問に対し、「そう思う」と回答した教職員の割合 (福岡市教育委員会調査)	教職員	79.2%	95.0%

施策 6 教員が子どもと向き合い、チームとして対応できる環境づくり

1 今後の方向性

教育は、教員が子どもたちとの触れ合いの中で一人ひとりの可能性を引き出し、成長を促す営みであるため、働き方改革や「チーム学校」の推進等を通して、教員が自己を高めながら、生き生きと子どもと向き合うことができる環境づくりを推進します。

2 主な取組み

● 働き方改革の推進

教員の時間外在校等時間は近年、全体として減少していますが、依然として長時間勤務の教員が多い実態があるため、「福岡市立学校における働き方改革推進プログラム」に基づき、部活動指導員やスクール・サポート・スタッフなどの専門スタッフの配置・拡充やクラウド型校務支援システム⁴⁶の導入など、引き続き教員業務の適正化・効率化に取り組み、教員が子どもと向き合う時間や自らの授業を磨く時間を確保できる環境づくりを進めます。

● 学校のマネジメント体制の強化

主幹・指導教諭や教頭マネジメント支援員の配置・拡充により、学校マネジメント力の向上を図るとともに、近年の大量採用により若年層が増加していることを踏まえ、学校現場における人材育成が機能するよう、体制の整備に取り組みます。また、キャリアステージの複線化を図るとともに、育児や介護等個々の教職員が置かれている状況に応じた多様な働き方が可能な環境づくりを推進するなど、学校における組織力の強化を図ります。

● チーム学校の推進

学校において、教育ダッシュボード⁴⁷等を活用して情報を共有し、校長等のマネジメントのもと、教職員とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、学校司書などの多様な専門スタッフがチームとして、子どもたちに必要な資質・能力を育成するとともに、様々な課題の解決に取り組みます。

⁴⁶ 児童生徒の成績情報、出席情報、指導情報等の管理を行うシステム。従来は職員室でのみ利用可能だったが、クラウド型では、職員室以外でも利用可能となる。

⁴⁷ 学習面や生活面などの様々なデータを、表やグラフで一覧表示したもの

3 指標

指 標		現状値 2024(R6)	目標値 2029(R11)
「子どもと向き合う時間や自らの授業を磨く時間を確保できているか」という設問に対し、「そう思う」「少しそう思う」と回答した教員の割合 (福岡市教育委員会調査)	教員	48.9%	61.0%
「学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、改善に向けて学校として組織的に取り組んでいる」という設問に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した学校の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校	97.9%	増加
	中学校	98.6%	増加

施策 7 安全・安心に学ぶことができる環境の整備

1 今後の方向性

学校施設をはじめとした教育環境の向上や、関係機関等と連携した児童生徒の安全を確保する取組みなどにより、子どもたちが安全に安心して学ぶことができる環境の整備を推進します。

2 主な取組み

● 学校施設の計画的な改修・建替え等

今後も、子どもたちが安心して学ぶことができる教育環境の向上を図るため、「福岡市学校施設長寿命化計画」に基づき、築20年、40年、60年に必要な改修を実施するとともに、計画的に学校施設の建替えを推進します。また、教育環境の充実に加えて、避難所として機能の確保を図るため、学校体育館に空調設備を整備します。

学校が新しい時代の学びの場となるよう、教育活動に柔軟に対応できる教育環境づくりを目指します。

● 学校規模適正化の推進

学校規模に起因する課題を解消するため、過大規模校や小規模化が進行する学校については、学校施設の建替えの機会などを捉え、地域や保護者などと丁寧に協議を行い、学校規模適正化に向けた取組みを推進します。

● 児童生徒の安全確保

通学路における交通安全対策については、「福岡市通学路交通安全対策プログラム」に基づき、関係機関と連携し、通学路の点検を実施します。また、登下校時及び放課後における児童生徒の交通事故等の原因を分析し、児童生徒に対する交通安全教室を実施するなど、安全対策に継続的に取り組みます。

3 指標

指 標		現状値 2024(R6)	目標値 2029(R11)
建替え工事に着手した学校数 (福岡市教育委員会調査)	学校施設	—	3校/年 (R8~)
「あなたは安全に気を付けて、登下校できていますか」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合 (生活習慣・学習定着度調査)	児童	94.0%	増加
	生徒	95.8%	増加

施策 8 学校と家庭・地域等の連携強化及び家庭・地域等における教育の支援

1 今後の方向性

子どもたちは、家庭や地域の中で様々な体験や人との関わりを通して成長していくものであり、学校と家庭・地域等との連携強化を図るとともに、家庭教育や地域における学習活動の支援等に取り組み、学校や家庭を取り巻く環境が変化している中でも、地域全体で子どもたちの学びを支える持続可能な環境づくりを推進します。

2 主な取組み

● 家庭・地域等との連携の推進

学校の情報を、ICTも活用し、より分かりやすく積極的に発信することで、家庭、地域、保育所・幼稚園等へ幅広く情報を伝えるとともに、学校サポーター会議や学校運営協議会⁴⁸等により保護者や地域住民等からの意見を聞き、地域全体で子どもたちを育む学校づくりに取り組みます。また、地域・社会の多様な人材等を活用して教育活動の充実に取り組みます。

● 家庭教育の支援、地域における学習活動への支援

子どもたちが規則正しい生活習慣などを身に付けるために、家庭教育の重要性について保護者の理解を深めるとともに、具体的な行動につながるよう、様々な場面において学びの機会を提供するなど、家庭教育の支援に取り組みます。

また、地域において自主的・組織的に学習活動及びその成果を実践する活動を行う団体の支援に取り組みます。

3 指標

指 標		現状値 2024(R6)	目標値 2029(R11)
「携帯電話やスマートフォン、コンピュータ、ゲーム機などの使い方について、家族と約束を決めて、それを守っている」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合 (生活習慣・学習定着度調査)	児童	82.8% (R5)	87.0%
	生徒	75.8% (R5)	85.0%
「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」という設問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	小6児童	86.3%	88.0%
	中3生徒	79.4%	81.0%

⁴⁸ 保護者や地域住民の意見を学校運営に反映し、地域とともにある学校づくりを実現するために設置され、学校運営に関する協議に加え、学校運営への必要な支援に関する協議も行うもの